

**【神奈川県川崎市】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）**

自治体名	神奈川県川崎市
担当課名	川崎市教育委員会事務局健康教育課
電話番号	044-200-0756

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	1,545,385人（令和6年2月1日現在）	部活動数	759部活
公立中学校数	52校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	「川崎市立中学校の部活動に係る懇談会」を設置（令和5年11月）
公立中学校生徒数	29,832人（令和5年5月1日現在）	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	検討中

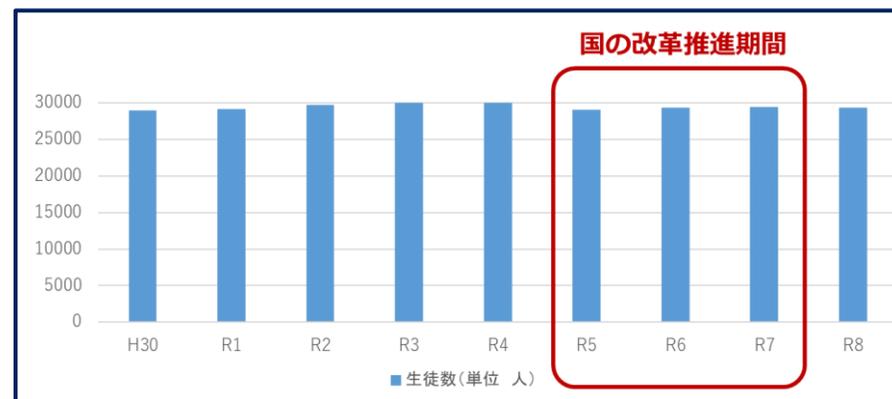
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

部活動の状況 基本情報（令和5年度）

- ・中学校数 = 52校
- ・生徒数 = 29,832名
- ・部数 = 759部活（うち運動部526部活）
- ・入部率 = 全生徒数の約84%（うち運動部 約61%）（24,907名）

中学校生徒数の長期推計から見た展望

- ・本市の中学校生徒数の推計は当面横ばいの傾向から、当面は学校単位での部活動運営が可能であると見込まれる。
- ・将来的な「休日の部活動の地域移行」に向けて、実践研究を通じて具体的な取組を通じた関係者との連携とニーズ把握、課題対応の検証が必要である。



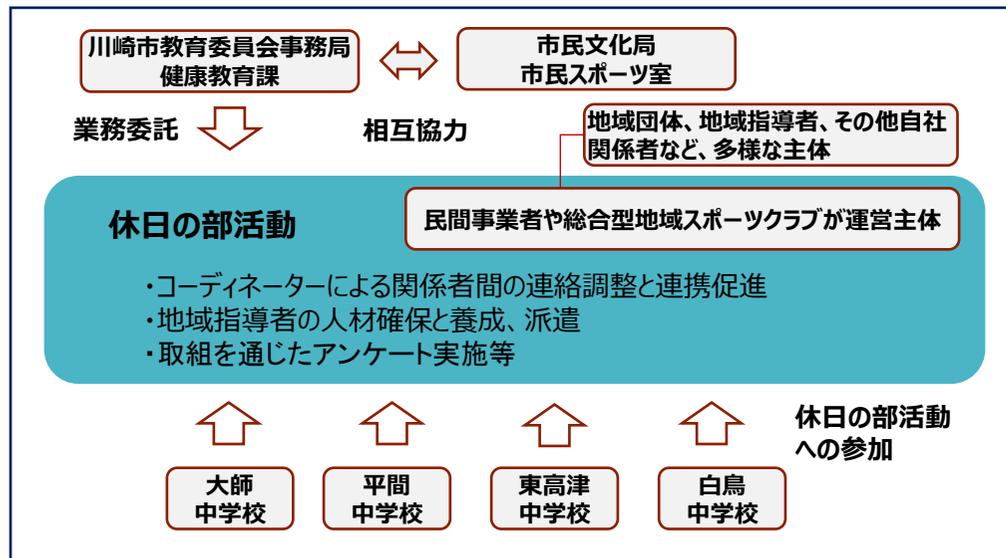
本市の地域移行における課題

- ・本市の実践研究においては、生徒の技術力の向上や教員の負担軽減等に資するため、既存の学校部活動を基本に実施しており、運営主体となり得る地域スポーツ団体等の不足や、中学生の発達段階に応じた適切な指導力を有する地域人材の確保、費用が受益者負担となることについての家庭の理解が難しいことなどが課題である。また、生徒が楽しむことを中心とした部活動の在り方なども視野に入れ、生徒等の意向や地域の実情の把握に努めながら、取組を進めていく必要がある。

2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



▼行政組織内での役割分担

- **教育委員会（健康教育課）**

全体の調整業務等

- **市民文化局（市民スポーツ室）**

地域スポーツ振興に寄与した本事業の取組に関する協力・連携

年間の事業スケジュール

時期	計画事項
5月	委託契約手続開始
6月	事業者募集
7月	契約締結
8月	派遣前オリエンテーション
9月	拠点校における実践研究開始
	次年度の計画検討
	市内競技団体等へのアンケート及びヒアリング実施
11月	部活動の実態調査（生徒、保護者、教員対象）
	第1回協議会の開催（中間・進捗状況の報告等）
2月	拠点校におけるアンケート（生徒、保護者、教員対象）調査実施
3月	事業完了報告書・成果報告書等の作成
	第2回協議会の開催（成果報告・来年度に向けた検討課題）
随時	関係団体等ヒアリング（部活動改革、指導者養成、ほか）

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

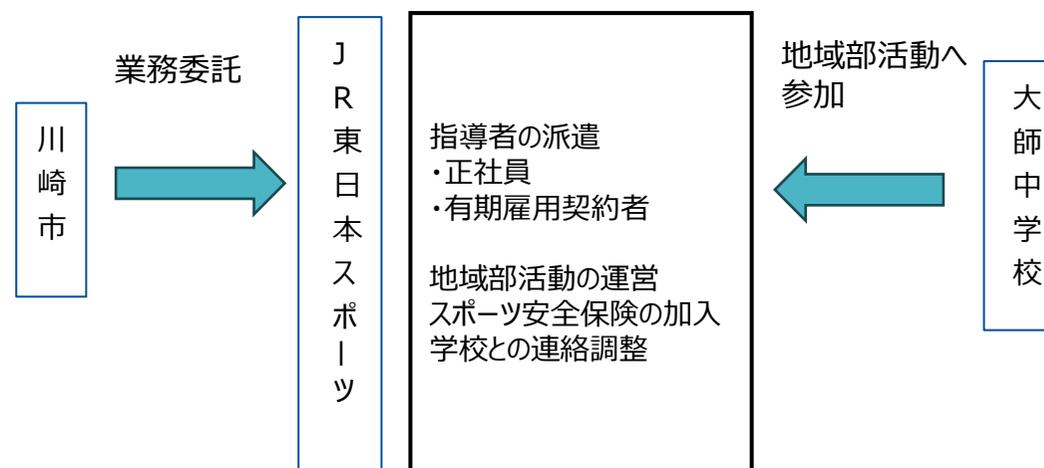
拠点校数	4校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	大師中学校：ソフトボール、女子バレーボール、男子・女子バスケットボール、陸上=5部活 平間中学校：男子ハンドボール、陸上、水泳、軟式野球、男子バスケットボール=5部活 東高津中学校：剣道、卓球、陸上、バドミントン、バスケットボール=5部活 白鳥中学校：男子・女子バスケットボール、バドミントン、卓球、ハンドボール=5部活
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	20部活		

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	川崎市立大師中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	5部活
地域クラブ活動で実施した種目	女子バレーボール・女子バスケットボール 男子バスケットボール・ソフトボール・陸上
運営主体名	JR東日本スポーツ株式会社
運営類型	民間スポーツ事業者運営型
1か月あたりの平均的な活動回数	女子バレーボール7回、女子バスケットボール3回 男子バスケットボール5回・ソフトボール2回・陸上4回
指導者の主な属性	社員及び有期雇用契約者
活動場所	川崎市立 大師中学校
主な移動手段	徒歩
1人あたりの参加会費等（年額）	0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

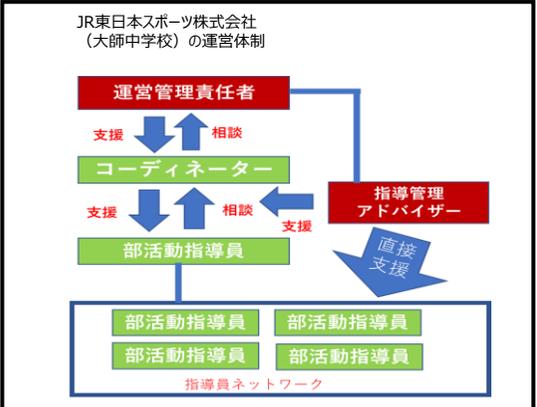
取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

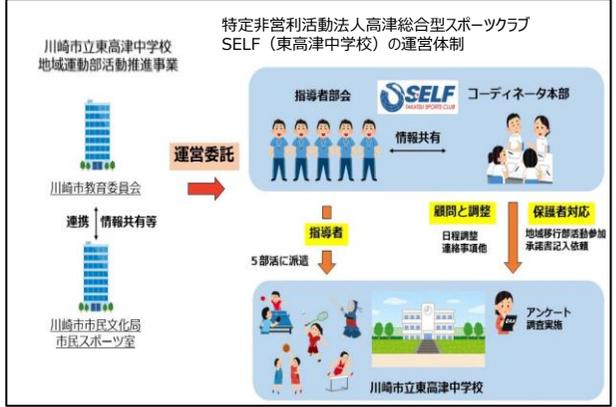
取組事項

・運営団体・実施主体の運営体制の整備や人材の確保など、持続可能な運営ができる組織体制の整備
関係者（教育委員会・学校関係者）との連絡調整はコーディネーターが主体となり実施

JR東日本スポーツ株式会社
(大師中学校)の運営体制



特定非営利活動法人高津総合型スポーツクラブ
SELF (東高津中学校)の運営体制



※JR東日本スポーツ株式会社の運営体制図にある「部活動指導員」とは、休日の部活動の地域移行の実践研究における地域の外部指導者のことを指す。

取組の成果

・各校に配置したコーディネーターが適宜、学校の求める部活動支援の形と指導者の役割について管理職や顧問に細かく聞き取りを行い、指導者の活動内容に反映させるとともに、顧問と指導者間で活動計画や活動報告の共有について橋渡しし、休日の地域部活動運営全般に係る調整役として事業を円滑に推進した。

特に工夫した事項

・地域部活動の持続可能な運営を目指す上で、地域特性や学校ごとの特色、各部活動ごとの顧問との連携などきめ細やかな対応ができるよう、運営主体となる民間事業者や総合型地域スポーツクラブが、それぞれ担当する各中学校ごとにコーディネーターを設置した。

今後の課題と対応方針

・地域クラブ等運営団体が「休日の部活動の地域移行」を進める上で、学校事情や個々の部活動の活動状況、顧問の考え方や活動方針等に応じて柔軟に部活動運営を行うためには、コーディネーターを中心に迅速に調整、対応できる体制を今後も引き続き検討、整理する必要がある。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項

- ・指導者の質の確保のための研修の内容や資格等の体制を検討
- ・ICT を活用した平日と休日の指導者間、学校と運営団体・実施主体間において、効率的・効果的な連携方策の検討
- ・地域人材を活用した仕組の検討

取組の成果

- ・技術指導はもとより、安全管理や救急救命、緊急時対応や中学生の発達段階に応じた指導など、指導者には配置前の事前研修を各運営団体事に実施した。
- ・平日と休日の部活動の一貫性や顧問との円滑な情報共有が図れるよう、コーディネーターを介した、顧問と指導者の連絡体制を構築した。
- ・地域のスポーツ団体等にも協力を依頼するなど、幅広い人材リソースと連携した人材募集を行った。

指導者の事前研修プログラム項目（リーフラス）

中学生について

- ・部活動の地域移行とは
- ・中学生について
- ・1年生の特徴
- ・2年生の特徴
- ・3年生の特徴
- ・思春期について
- ・主体性をもたせるための指導
- ・多様性を認めるための指導
- ・寄り添う指導
- ・勇気づけの言葉
- ・ハラスメントになる事例の理解

指導方針

- ・指導方針
- ・指導者の役割
- ・指導者に必要な力
- ・生徒にどう見られているかを考える
- ・声のコントロール
- ・叱り方
- ・行き過ぎた指導について
- ・アンガーマネジメント
- ・話を聞かせる環境づくり
- ・コーチングノウハウ
- ・シンクロコーチング
- ・フリースコーチング
- ・ミーティング
- ・コーチングの使い分け

怪我の対応

- ・怪我の際の連絡、対応方法
- ・怪我の初動対応
- ・怪我の箇所別対応（頭部）
- ・怪我の箇所別対応（腹部）
- ・怪我の箇所別対応（その他）
- ・一次救命措置の手順
- ・他の生徒への対応

特に工夫した事項

- ・指導力が高く実技も披露できる指導者を安定的に供給するため、主任と副主任で役割を決め、経験豊富なベテラン指導員と実技が得意な若手指導者をペアで配置する等、工夫した。
- ・活動日報等によりコーディネーターが個々の指導者の活動状況を把握し、学校側のニーズに沿えるよう、適宜指導者への個別フォロー及びヒアリングを実施した。

今後の課題と対応方針

- ・今後、地域の団体や大学、企業と更に連携を深め、地域内での人材確保と人材養成の環境づくりを進める必要がある。
- ・学校と運営団体間における効率的・効果的な連携については、より迅速かつ正確に情報共有できる連絡体制について、アプリやツールも活用した方法も引き続き検討が必要である。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

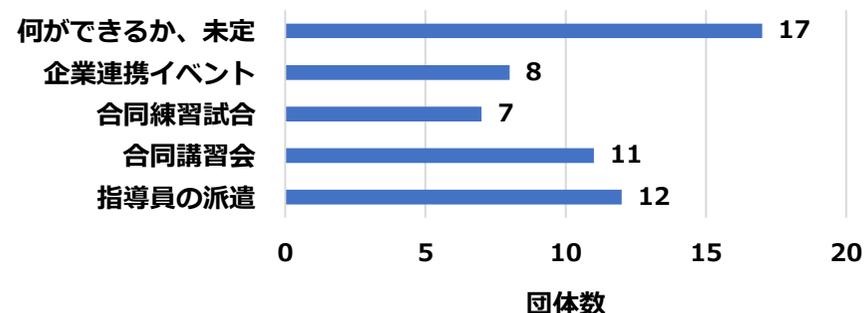
- ・指導者の派遣、民間施設の利用、研修教材の提供・講師派遣などについて連携
- ・関係団体へのヒアリング実施
- ・スポーツ振興に関わる検討

取組の成果

- ・各運営主体ごとに、地域団体への派遣協力依頼や自社社員の登用、地域人材の新規募集など、さまざまな手法で指導者を確保し、独自の研修プログラムや指導者支援プログラムを構築して、休日の部活動の地域移行に向けた指導者派遣を行った。
- ・市内スポーツ団体へのアンケート実施により、各競技団体について、大会運営など教員の関与が大きいことがわかった。
- ・多くの団体が、今後の子どもたちの活動に関して協力の意向を示してくれており、「休日の部活動の地域移行」に向け、何ができるかまだイメージが湧かない団体が大半を占める一方、「指導員の派遣」「合同練習会」等の具体的な協力に関する回答もあった。

市スポーツ協会加盟団体へのアンケートより（40団体中32団体から回答）

国の「部活動の地域移行」の考え方に沿う形で
各団体が対応可能なこと（見込みを含む）



今後の課題と対応方針

- ・各団体とも、活動の担い手のすそ野は広げたいと考えており、学校部活動への協力には前向きな団体が多いことから、地域スポーツの振興の趣旨も兼ねて、今後、各競技団体と休日の部活動の地域移行に向けた連携について検討する。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：エ：面的・広域的な取り組み

取組事項

- ・人材確保に関する地域間連携の検討（近隣自治体、大学等と連携した指導者養成の仕組みづくりの検討等）

取組の 成果

- ・民間企業による部活動指導者養成の研修を視察し、指導者養成に必要なプログラムを学ぶことができた。
- ・民間企業や大学、地域スポーツ団体に対して、今後の部活動指導人材の確保に向けた連携の一環として、本市部活動指導者の募集等についての広報を行った。

今後の 課題と 対応方針

- ・今後、市内の大学関係者やスポーツ団体代表、総合型地域スポーツクラブ関係者等と連携し、地域の大学やスポーツ団体による指導者養成や中学校の部活動への支援の仕組みを考えるとともに、神奈川県下における人材バンクや指導者養成講習の動向、近隣市との情報交換も踏まえ、広域での地域人材交流などを検討していく必要がある。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：オ：内容の充実

取組事項

- ・生徒が望む部活動の在り方の検討
- ・生徒の志向や体力等の状況に適したスポーツに親しむ機会の確保に取り組む
- ・部活動のあり方についての検討

取組の成果

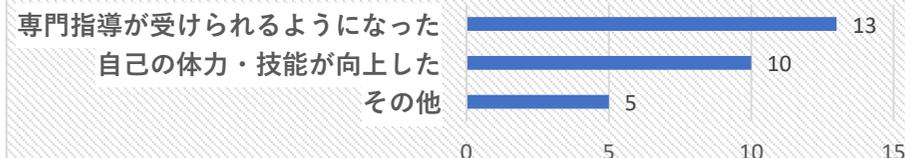
- ・拠点校におけるアンケートや部活動の実態調査を通じて生徒が望む部活動のあり方や傾向を把握した。
- ・生徒は、「体力・技能の向上」「規律や礼儀作法」「スポーツや文化芸術の楽しさ」を部活動を通して得たと感じている。
- ・生徒からは「気軽に参加できる」「楽しめる」活動を求める声が多く、「今のままでよい」と現状に満足している人も一定数いる。

※大師中学校のアンケート結果（5部活対象者総数111人中23人回答）より

地域の指導者が休日の部活動の指導に加わった取組について、どう思いますか。



満足（あるいは不満足）だった理由を教えてください



今後の課題と対応方針

- ・生徒がやりたい活動を自主的に選択し活動できる環境を含む多様な主体との意見交換を通じて、生徒が「気軽に」「楽しく」参加できる部活動の形を検討する必要がある。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保証・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：カ：参加費用負担の支援等

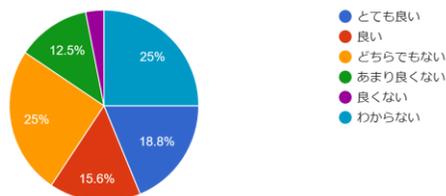
取組事項

- ・保護者アンケートの実施
- ・合同講習会（イベント）の実施 別途参加費を徴収して、合同講習会を試行で実施

取組の成果

- ・アンケート結果から、保護者の地域クラブ活動に対する関心度や費用負担に関する考え方の傾向を知ることができた。費用負担については、現時点ではまだイメージが湧かない保護者が多数おり、具体的な金額についても「月1,000円未満」の意見が最も多い。
- ・受益者の費用負担を伴う合同講習会の実施について、保護者の承諾のもと、計80人の生徒が参加し、具体的なイベントとして少額の負担であれば、生徒、保護者の満足度も高い。

④将来、休日の学校部活動が地域クラブ活動等に変わるとしたら、どのように感じますか
 32件の回答



将来、休日の学校部活動（月4～5回程度）を地域クラブ等が担うことで、ご家庭の費用負担が発生する場合、年間（毎月）の負担額はどの程度が適当であるか教えてください。



※大師中学校のアンケート結果（5部活対象者総数111人中32人回答）より

特に工夫した事項

- ・今までの部活動のあり方が当たり前となっている関係者（生徒、保護者、教員）の意識を変えていくには時間がかかるため、「休日の部活動の地域移行」にかかる費用負担の課題についても、まずは保護者の感じているところをアンケートにより把握し、一部費用負担の試みを取り入れるところからスタートした。

今後の課題と対応方針

- ・今後、受益者負担を求める際、生徒と保護者が対価として満足できる技術指導、内容、指導環境等が求められる。また、保護者の理解を得ながら、段階を踏んでステップアップしていく必要がある。
- ・今後、保護者負担経費の調査（学校部活動の活動経費との比較）や困窮世帯への支援の在り方の研究を行う。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：キ：学校施設の活用等

取組事項

- ・学校施設利用時の設備・備品等の利用ルールの検討
- ・学校施設の鍵の開閉についての検討

取組の成果

- ・地域クラブが学校を使用する際、使用前後に備品等の点検を徹底することで、安全な地域部活動運営を実施することができた。
- ・地域クラブが学校から鍵等を借りる際は、学校の指示に従った適切な管理を行うことで、施設利用を円滑に進めることができた。

特に工夫した事項

- ・使用施設の鍵については、各学校ごとの事情に応じて、地域クラブ指導者が休日に職員室に在室中の職員から学校の施設開放の際に使用する鍵を借りる等、柔軟に対応することができた。

今後の課題と対応方針

- ・学校施設の設備・備品の利用について、学校部活動の支援として地域クラブが指導者を派遣する分には運用面で問題ないが、今後、地域クラブが顧問教員なしで独立して利用する際は、必要に応じて地域クラブ側で一部の備品等を自前で用意することが想定され、継続的な費用捻出の課題がある。
- ・学校施設の鍵の開閉については、学校の施設開放による方法を援用することで柔軟に対応できたが、将来的に学校部活動から地域クラブ活動に切り替わる際には、施設利用に関しての団体登録や利用日程調整をどうするのか、鍵の保管場所と管理方法をどうするのか、といった課題が残る。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ク：その他の取組

取組事項

- ・地域スポーツクラブ活動の取組の広報・周知
- ・教員の兼職兼業に向けた検討・調整・周知

取組の 成果

- ・各拠点校における実践研究を通じて、拠点校の教員を中心に「休日の部活動の地域移行」の本市における取組状況と課題を共有することができた。
- ・拠点校及び近隣校を含めた合同講習会を開催することで、拠点校を中心とした生徒、持続可能な部活動の多様な実施方法の1つの形を提供し、保護者に「休日の部活動の地域移行」の取組について認識してもらうことができた。
- ・教員の兼職兼業に向けた検討に先立ち、地域のスポーツ、文化団体への教員の関わり、団体主催の大会等の状況についてアンケート等により聴取した結果、スポーツ団体や運動部の大会運営について教員の関与が高く、文化部団体は教員の関与が低い実情がわかった。

今後の 課題と 対応方針

- ・「休日の部活動の地域移行」の実践研究を通じて、将来的な地域移行に向けた具体的な取組を引き続き検討していくとともに、既存の部活動関係者が集まる会議等を通じて、実践研究結果を拠点校以外の学校等にも周知する。国のガイドラインに基づき、まずは教員に代わる地域の人材確保と育成を進めるとともに、現状、各団体や大会運営に教員が関わる役割が大きいことから、関係団体と、大会の精選や教員の兼職兼業による参加の仕方についても今後協議検討する必要がある。

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



平間中学校ハンドボール部において、民間企業から派遣された指導者が指導している様子



合同講習会（東高津中学校、高津中学校、西高津中学校）にて、総合型スポーツクラブから派遣された指導者が指導している様子



大師中学校陸上部において、民間企業から派遣された指導員が指導している様子



大師中学校ソフトボール部において、民間企業から派遣された指導者が指導している様子

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

項目	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度以降
学校部活動の 適正化	部活動の実態 調査と分析	部活動の更なる 適正化の検討	指針（案）に基づく 新たな取組の効果検証	令和8年度以降 の事業に反映
	部活動指導員の更なる活用		部活動指導員の更なる活用	
休日の部活動 の地域移行 の検討	多様な主体による意見交換		試行を踏まえた意見交換	
	民間企業や総合型地域スポーツクラブ、大学等 の支援による拠点校実践研究		指針（案）を踏まえた 更なる取組と効果検証	
		部活動指針（案）作成予定 川崎市立中学校のこれからの		